

令和4年6月30日

TEL・FAX 0954-66-3113

発行責任者 江口 常雄

き ず な

す けん き みどり さと おお くさ の  
住 み よ い 元 気 な 緑 の 郷 大 草 野

## 梅雨の晴れ間に・・・田植え体験ができました！

秋にはおいしいお米がたくさん獲れますように！ 6月16日（木）



梅雨入り宣言があった後は、すっかり梅雨らしくなり雨の多い日となりました。しかし、晴れ男の面目躍如で、田植え当日は日差しがありました。田植足袋を履くのに悪戦苦闘している児童もいます、との川崎先生が話をされましたが、グラウンドに揃った児童達は、始まりの会では、田植えの説明をする宮崎会長に聞き入っていました。それから、赤い帽

子と白い帽子の2班に別れて田んぼに入りました。最初に、赤い帽子の子ども達がトライしましたが、説明をしてもらいながらも、植えはじめのころは、なかなか思うようにいかない様子でしたが、5列目くらいになると、手際もよくなり、1列を植え終わる時間が早くなりました。

今年の児童は、田んぼに倒れ込む子もいなくて、静かに粛々と植え終わった印象でした。今年の、独断で選んだ田植えチャンピオンは、徳永悠風君を選びました。他の子がまだ思う

ようにいかないでいる時も、ヒョイヒョイと簡単にしっかり植えていました、尋ねてみると「植えたことがあります」と答えてくれて、さすが経験

者は違いました。おわりの会の進行もしっかり進めてくれました。

右の写真は、徳永悠風君です。





# ホタルよ光れ、飛べ！ 本当に今度こそは！と願って！

## 4年生24名が幼虫を放流（6月21日：火曜日）



この日、午前4時41分には大雨警報が出るような空模様でしたが、7時くらいには弱まってきて、8時半過ぎに警報は解除になりました。子ども達がホタルの人工小川に到着する頃には、ずい分小降りになったので、始まりの会を簡単にして、人工小川に沿って並びました。それから、蛍の幼虫と幼虫のエサになる川ニナを放流しました。終わりの頃、また少し雨が強まったので、急いで人工小川を後にしました。私が事務局になってから、まだここで育ったホタルのかがやきを見たことがありません。

来年こそは、三度目の正直です！ 子ども達と一

緒にホタルの観賞会が出来たらいいと思います。

### 引き続き <生態学習>ホタルの学習、顕微鏡で見る幼虫は？！

子ども達が理科室に到着する前に、幼虫を顕微鏡にセットしようと思いますが、これがなかなかうまくいきません。生きた状態で見せたいと思い、ガラスで挟まないでレンズの前に置く



と、幼虫が動き回

り見える範囲に止まってくれません。やっとうまくセットできたかと思うと、1、2人見たらどこかに動いてしまったりで、子ども達に、あのエイリアンの姿を見せるのが大変なこと！

「ウエツ！！」と、言った後、しばし絶句する子どももいました。ほぼ黒い小さなゴミのようにはしか見えな

いものが、顕微鏡の中には、ムカデか毛の生えた芋虫のようなものが！初めて見た子ども達は気持ちが悪かったと思います。女性の先生方も、同じようです。子ども達は、講師の一ノ瀬顧問の話の、ホタルの不思議にすっかり耳を傾けていました。この子たちの放流した幼虫が、来年こそは成虫となって、闇の中でキラキラと希望のかがやきを放ってほしいと願います。

#### 〈編集後記〉

「アツと言う間の田植え」  
平日の勤務を終えてから、田植え機に乗り、田植えが始まったかと思うと、私が一時間ほどウオーキングして、また戻ってみると乗用田植え機の姿がもう見えなくなっている。  
今となつては、私が子どもの頃の田植えと比較しても無意味ですが、それにしても田植えの時間が短い、夕方だけで終わってしまうのだから。  
田植えの当事者でもない私が呑気なことを言っただけなのに、昔ののどかな感じが、せわしない今だからこそ、あつてもいいような気がします。  
昔懐かしい田植え風景というふうなイベントも観光事業の一つの取組みとして行つてもいいのではないのでしょうか。  
田植えで疲れた後は、温泉に浸かり、嬉野茶を飲み、そして美味しいものを食べる、というツアーもありでは？田植えは、少々の雨が降つても、実行できるし、アブノーマルな方が特異な体験として記憶にも残りそう。私ももう六十年位ちやんとした田植えをしたことが無い。昔の、ヒルがいる田んぼに、祖父から促されて嫌々ながら入った記憶があるくらい。  
新幹線駅が開業したら、農業や窯業の体験をお客さんにしてもらい、少しでも長く滞在してもらおう工夫があったらいいなと思う。農が強ければ日本はもっと強くなるはずだ。